

アニマルウェルフェア フード コミュニティ ジャパン
Animal Welfare Food Community Japan 主催

第4回国際シンポジウム

アニマルウェルフェア

世界の A W 畜産企業ビジネスが日本をどう変革するのか？

—オランダの有機畜産とグローバル食品企業・ベンチャーキャピタルのAW戦略—

シンポジウムの背景とねらい

2005年以來、OIE 世界家畜福祉基準の開発が進められてきているが、畜種別のアニマルウェルフェア生産システムは、肉用牛、肉鶏、乳用牛、養豚においてはすでに決定されている。最後に残された採卵鶏のAW生産システムの原案も作成され、2020年の総会で採決されると世界家畜福祉基準が完成することになる。

OIE の世界家畜福祉基準が加盟国間の畜産業および食品産業における一律的な AW 基準となるにつれ、グローバルな食品大企業やベンチャー投資家がビジネスチャンスとしてアニマルウェルフェア食品フードチェーンの開発を始めている (BBFAW の活動報告)。

BBFAW を典型とするそのようなグローバル食品企業の展開と対照的な AW 畜産チェーンシステムが進展している。すなわち、家畜福祉を実現するライフスタイル改善運動として国内および地域的な家畜飼育生産者と消費者、食品企業が協働する自給的コミュニティによる AW 畜産チェーンの開発である。日本におけるそのようなチェーン開発と同様な展開が今回のシンポジウムで報告されるオランダの放牧養豚肉牛の有機畜産牧場でも見られる。

しかも、オランダのアニマルウェルフェア畜産食品チェーンで高く評価されて普及している Beter Leven 認証ロゴの最高レベルの3スターを受けている有機畜産牧場が、EU と日本で締結された EPA 協定に対応して、その認証ロゴがついた豚肉を輸出する計画である。目的の一つとしてオランダの AW 食品を日本の消費者に評価してもらいたいという意図があるという(オランダのAW有機牧場の活動報告)。

またグローバルな食品チェーンをもつ巨大な食品企業が AW 食品部門をビジネスチャンスとして戦略的な経営政策を展開しているが、その日本支社も本社の AW ガイドラインに従いつつある。

以上のような世界の AW 食品企業の先進的なビジネス事業が日本の畜産業界および食品産業界に大きな変革をもたらすことが予測され、それは日本の消費者にとっても新たな生活価値観の変化をもたらすことになる。

日本においては「OIE 基準に対応した『飼養管理指針』」「2020年オリンピック食材用の AW 宣伝」「畜産物 GAP 認証制度」などによって、家畜福祉が社会的にクローズアップされている。

しかしながら、日本での家畜福祉畜産と AW 食品のビジネスおよび消費市場の展開は欧米などの畜産先進国のみならず途上国に比べても大変遅れている状態である。本シンポジュームのねらいとして、そのような日本にとって重要な世界の“畜産革命”に対応する中長期の価値観とビジネス戦略の転換をどのように実現していくかという焦眉の課題を取り上げたい。

2019年7月6日
AWFCJapan 代表
松木 洋一